

平成30年 11月 15日

東松島市議会議長 阿部 勝徳 様

(会派名) 清風・公明  
代表者氏名 五ノ井 惣一郎



### 会派活動実施報告書

東松島市議会政務活動費をもって、下記の会派活動を実施したので報告します。

#### 記

#### 1 会派活動の項目

調査研究費、 研修費、 広報費、 広聴費、 要望・陳情活動費、 会議費

#### 2 活動名称：

- (1) 秋田県北秋田市教育委員会
- (2) // 鹿角市教育委員会

#### 3 実施期日：

平成30年10月16日(火)～10月17日(水)

#### 4 視察項目及び内容等

実施日	視察場所	視察内容	目的
16日 (火)	北秋田市 教育委員会	1 学力向上施策 2 伊勢堂岱縄文館視察 (縄文文化財等の維持管理)	1 学力向上施策 先進地の特出すべき施策を 学び本市に於ける学力向上施 策への反映の資とする。
17日 (水)	鹿角市 教育委員会	1 学力向上施策 2 大湯ストーンサークル館 (縄文文化財等の維持管理)	2 縄文文化財等の維持管理 分際の維持管理状況を視 察し、本市に於ける赤井遺 跡、縄文遺跡等の維持管理 への資とする

#### 5 その他

- (1) 行程表(移動手段を含む)、参加者名簿、説明・質疑・所見等別紙のとおり。
- (2) 移動は、全行程車両



## 平成30年度第3回視察報告

## 1 視察期間

平成30年10月16日(火)～10月17日(水)

## 2 視察先

(1)秋田県北秋田市教育委員会

(2)秋田県鹿角市教育委員会

## 3 視察項目及び内容等

実施日	視察場所	視察内容
10月 16日 (火)	北秋田市教育委員会	1 学力向上施策 (1)独自施策の実施経緯 (2)各学校の授業内容 2 伊勢堂岱縄文館視察 (縄文文化財等の維持管理)
17日 (水)	鹿角市教育委員会	1 学力向上施策 (1)独自施策の実施経緯 (2)各学校の授業内容 2 大湯ストーンサークル館 (縄文文化財等の維持管理)

## 4 視察時程

日	時程	項目	備考
10月 16日 (火)	07:30	東松島発	
	12:00	北秋田市着	
		昼食	
	13:30	市役所到着視察開始	
	16:30	視察終了 市役所発	
	17:50	ホテル着	ホテルガーデンかわむら
17日 (水)	08:40	ホテル発	
	09:00	鹿角市役所着、視察開始	
	12:30	視察終了	
	13:30	鹿角市発	
	16:50	東松島市着	

## 5 参加者名簿

	氏名	役職等
1	五ノ井 惣一郎	会派代表、議運副委員長、総務常任委員会副委員長
2	熱海 重徳	会派副代表、産業建設常任委員会副委員長 財務常任委員会委員長、広報常任委員会
3	上田 勉	会派幹事長・民生教育常任委員会委員長 広報常任委員会

4	土井光正	会派事務局長、総務常任委員会	(公明党)
5	齋藤徹	産業建設常任委員会	
6	石森晃寿	総務常任委員会	
7	手代木せつ子	民生教育常任委員会、広報常任委員会	

## 6 質問事項等

場 所	視察項目	質問事項
北秋田市	1 学力向上施策 (1)独自施策の実施経緯 (2)各学校の授業内容 2 伊勢堂岱縄文館視察 (縄文文化財等の維持管理)	1 学力向上 ①教育委員会の指導のあり方 ②各学校の独自性 ③教育環境の取り組み (学校・家庭・地域/コミュニティ・スクールの取り組み)
鹿角市	1 学力向上施策 (1)独自施策の実施経緯 (2)各学校の授業内容 2 大湯ストーンサークル館 (縄文文化財等の維持管理)	④教育の狙い・方法等先生の指導要領向上策 ⑤教育行政の特質すべき内容 2 文化財の維持管理 ①施設の視察(施設の維持管理など) ②文化財の特質

## 7 視察状況

### (1)視察内容の検討

今年度計画に基づき、今年度最後となるであろう、1泊2日の視察を計画し、①学力向上策②文化遺産の維持管理施策について北秋田市および鹿角市を視察した。

秋田県は、全国学力テストでは常に上位を占め、全体として各学校はその上位を占めている。

手法に於いて学ぶべきものものが多くあると聞き選定した。

また、文化遺産の維持管理については、9月に縄文遺跡がある都市の首長らによる「縄文シティサミット」が北秋田市で行われ、鹿角市の大湯環状列石と北秋田市の伊勢堂岱遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」(北海道、青森、岩手、秋田)を選んだ。早ければ2020年に国連教育科学文化機関(ユネスコ)から登録を受ける。実現すれば、本県関係では自然遺産の白神山地(1993年登録)以来の世界遺産で、文化遺産としては初めてとなる。

学力向上策では、特徴ある施策を実施し、成果を上げている両市と、縄文文化遺産の管理・運営についても近年の取り組みは特出すべきものがあり実施した。

以下各視察内容について記す。なお、報告書は、関係市のHPおよび説明資料を用い知り得た成果としてまとめ、質疑応答などについては「所見」の項にまとめて記した。





## (2)北秋田市

### ア 市勢等

北秋田市は秋田県の北部中央に位置し、面積は1152.76平方キロメートルと、秋田県全体の約10パーセントを占めている。

秋田市から北東へ約60キロメートル、東は大館市・鹿角市(かづのし)、南は上小阿仁村(かみこあにむら)に隣接しているほか、西は能代市に近接するなど県内主要都市に近く、本市の中心部であるJR鷹ノ巣駅からの距離は、大館市が約17キロメートル、能代市・鹿角市が約30キロメートル。

道路網や公共交通機関も縦横に整備され、東西には国道7号線とJR奥羽本線、さらに平成28年には日沿道ネットワークの一部として高速道路も開通し、鷹巣と秋田新幹線のおおる角館を結ぶ秋田内陸線、そして東京便が定期便として運航されている大館能代空港が主要な交通網を形成している。

市北部を横断する米代川中流部の鷹巣盆地を中心として、この盆地と米代川の支流である阿仁川や小阿仁川等の河川の流域に優れた農地を形成し、市街地や集落が点在しています。産業は、稲作を中心とした農業や、衣服・木材、電子部品などの製造業、医療・福祉が主で、産業別就業人口(平成22年国勢調査)では第三次産業が約60パーセントを占めている。

気候は、内陸性で年較差が激しく、冬季は低温で山間部は積雪量が多いため森吉地域、阿仁地域は特別豪雪地帯に指定されている。

また、県立自然公園に指定されている森吉山麓を中心にクマゲラの棲むブナの原生林や多数の瀑布が散在し、優れた自然景観や山岳溪流に恵まれている

環境問題が深刻化する現在、自然との共生が重要な課題となることから、この恵まれた自然環境を活かしたまちづくりを推進している。

[平成30年9月末現在( )内は外国人の数]

人口、	32,342人(151人)	男性、	15,147人(11人)
女性、	17,195人(140人)	世帯数、	14,097世帯(145世帯)

### イ 学力向上策

平成18年、約60年ぶりに教育基本法が公布・施行され、教育三法の改正も行われ、さらに平成20年には、政府としては初めての教育振興基本計画が策定(現在は第2期教育振興基本計画)された。<H25-29>

秋田県教育委員会は、平成23年10月「あきたの教育振興に関する基本計画」を策定(現在は第2期基本計画〈以降、年度ごとの実施計画 H27-31〉)、着実な推進を図ってきた。

また、平成23年4月から小学校、平成24年4月からは中学校の新しい学習指導要領が全面実施された。

この学習指導要領は、子どもたちに「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」などの「生きる力」をよりいっそう育むことを目指すことが示されている。

北秋田市教育委員会では、今後の教育の在り方を見据え、確かな教育を推進するために、平成25年4月に「北秋田市の目指す学校教育」を策定「心豊かでたくましい人間性を育む教育の推進」を基本理念に据え、重点目標及び施策の柱と



方針を示し、各学校での実践を図っている。

#### (ア)北秋田市学校教育ビジョンの策定について

##### ●策定の趣旨

新しい時代に対応した教育の在り方について、教育の諸課題の解決とともに、中・長期的な視点に立った検討が強く求められている。

これからの時代を担う有為な人材を育成するためには、市の実情に即した教育の改革に取り組み、これまで以上に計画的かつ総合的に教育行政を推進する必要があることから、新たに、今後の市学校教育の指針となる「北秋田市学校教育ビジョン」を策定した。

##### ●計画の位置づけ

この学校教育ビジョンは、本市が21世紀における社会の姿を展望し、市学校教育の基本的目標や具体的な施策の方向など、今後の本市教育が目指すべき方向を明らかにするもの。

(a)この学校教育ビジョンは、市政運営の指針「北秋田市後期基本計画」を上位計画として、その学校教育分野の目標を達成するためのもの。

(b)この学校教育ビジョンは、国や秋田県の諸教育計画等との整合性を図り、学校教育施策を総合的・体系的に推進し、北秋田市学校教育の理念の実現を目指すためのもの。

(c)この学校教育ビジョンは、平成20年7月に閣議決定された国の教育振興基本計画を参酌しつつ、秋田県教育のビジョン等を踏まえ、学校教育行政計画として位置付ける。

##### ●計画の期間

この学校教育ビジョンは、平成27年度を初年度とし、平成31年度を目標年度とする5年間とする。

今後5年間における北秋田市が取り組むべき、目標や基本方向、施策の柱および方針を明らかにするとともに、その達成に向け、PDCAサイクルに基づいた評価の実施と公表を行う。

#### (イ)県の目指す地域に根ざしたキャリア教育の充実

「第2期あきたの教育振興に関する基本計画」においては、学校教育共通実践課題であるふるさと教育を基盤としたキャリア教育の充実を重視している。

秋田県の将来を担う子どもたち一人一人が「生きる力」を身に付け、様々な課題に柔軟に、かつたくましく対応していくことができるよう、地域に根ざしたキャリア教育の充実を図っていく。

地域との関わりを通して、子どもたちに学ぶことと社会との接続を意識させ、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育み、キャリア教育の充実を図る。

##### ●キャリア教育の狙いの共有と成果の発信

「\*キャリア教育で育成する基礎的・汎用的能力」を踏まえ、将来の社会的・職業的自立を念頭に置きながら、ふるさと教育全体計画や各教科等の年間指導計画を改善するとともに、学校報やPTA等での広報活動、職場体験・インターンシップ依頼時の事業所等への説明、“秋田わか杉七つの「はぐくみ」”の活用等を通して、キャリア教育のねらいと成果を学校と家庭や地域、



企業等と共有し、連携・協働して子どもたちを育てる。

「\*キャリア教育で育成する基礎的・汎用的能力」

- ①人間関係形成・社会形成能力
- ②自己理解・自己管理能力
- ③課題対応能力
- ④キャリアプランニング能力 等

●学齢や発達段階を踏まえた体験活動の充実

学齢や発達段階を踏まえ、集団宿泊活動、職場体験、インターンシップ等の体験活動を充実させることにより、学ぶことや働くこと、生きることの尊さを実感させ、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる資質・能力を育てる。

また、地域の伝統を受け継ぐ活動や地域の産業に関わる活動、地域の課題や展望について考え発信する活動等の地域の活性化に貢献する活動を通して、広く社会に発信し行動できる人材の育成を図る。

●キャリア発達を一層促すための学校間・校種間連携の推進

学校間・校種間における職場体験・インターンシップ先の共有、授業や行事での交流、学びの履歴を校種を超えて把握することなどを通して、子どもたち一人一人のキャリア発達を支援する

(ウ) “「問い」を発する子ども”の育成

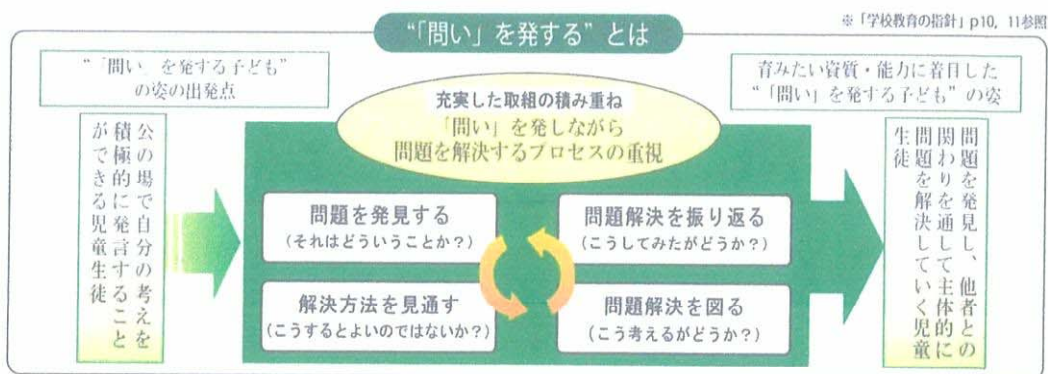
全教育活動を通して取り組む最重要の教育課題

～問題を発見し、他者との関わりを通して主体的に問題を解決していく児童生徒の育成～

防災教育 道徳教育 キャリア教育、生徒指導 人権教育、情報教育 等

“「問い」を発する子ども”に求められる資質・能力を育むためには、各教科等で育成する資質・能力を明確にした上で、教育課程を教科等横断的な視点で組み立てるなどカリキュラム・マネジメントの充実を図り、意図的な手立てを講じて教育活動の質を向上させることが重要である。

## “「問い」を発する子ども”の育成



●様々な教育活動における意図的な手立ての工夫

“「問い」を発する子ども”に求められる資質・能力を育むためには、各教科等で育成する資質・能力を明確にした上で、教育課程を教科等横断的な視点で組み立てるなどカリキュラム・マネジメントの充実を図り、意図的な手立て

を講じて教育活動の質を向上させることが重要である。

・学級で

- 自主的な活動を通じた互いを尊重する共感的な人間関係の重視
- 自己存在感を得る場や自己決定の場の設定の工夫
- 学級活動における、必要性のある議題選定の指導

・行事や地域で

- 生き方についての課題意識をもたせる体験活動の工夫
- 人々との世代を超えた交流を取り入れた社会体験の充実
- 目的意識を高める事前指導と事後指導における表現活動の工夫

・遊びや生活で

- 安心できる環境の下、自分の思いを伝えたり認めてもらったりする経験の積み重ね
- 主体的に環境と関わり、興味・関心を抱いたことに存分に取り組むための援助
- 友達の考えを取り入れ、経験したことを生かす遊びの充実

(エ) 様々な教育活動における意図的な手立ての工夫

” 「問い」を発する” とは

県の幼児児童生徒が、将来、ふるさと秋田を支える人材となり自他の営みを積極的に工夫改善し発信していくためには、自発性や公共の精神及び思考力、判断力、表現力等を基にした、「問い」を発する力を身に付けていくことが必要である。

これを受け、平成23年度から「学校教育の指針」に“ 「問い」を発する子ども”の育成を掲げ、幼児児童生徒が自ら問うことによって学ぶ授業等の推進に努めてきた。さらに、各学校においては、県で推進している「秋田の探究型授業」を一層充実させる取組が進められてきた。

その結果、“ 「問い」を発する子ども”の具体的な姿は、当初の「公の場で自分の考えを積極的に発言することができる児童生徒」像から、児童生徒に育みたい資質・能力に着目することにより「問題を発見し、他者との関わりを通して主体的に問題を解決していく児童生徒」像へと質の転換が図られてきている。

“ 「問い」を発する子ども”の育成に向けて

1 様々な教育活動における意図的な手立ての工夫

各教科等において育む資質・能力を明確にした上で、各学校における教育課程を教科等横断的な視点で組み立てるなど、カリキュラム・マネジメントの充実を図り、意図的な手立てを講じて教育活動の質の向上に努める。

2 「秋田の探究型授業」の基本プロセスを機能させた授業づくりの充実

単にプロセスをなぞったり、形式的な話し合いをさせたりするのではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通し、学習過程におけるそれぞれの段階をしっかりと機能させた上で、一連のプロセスとして関連付けて捉え、授業を展開する。



3 「問い」を発するための基盤となる言語活動の充実

各教科等の特質に応じた言語活動を学習過程に効果的に位置付け、言語活動を取り入れるねらいを明確にしてその質を高めるとともに、学校の全教職員の共通理解の下、言語環境の一層の整備・充実を図る。

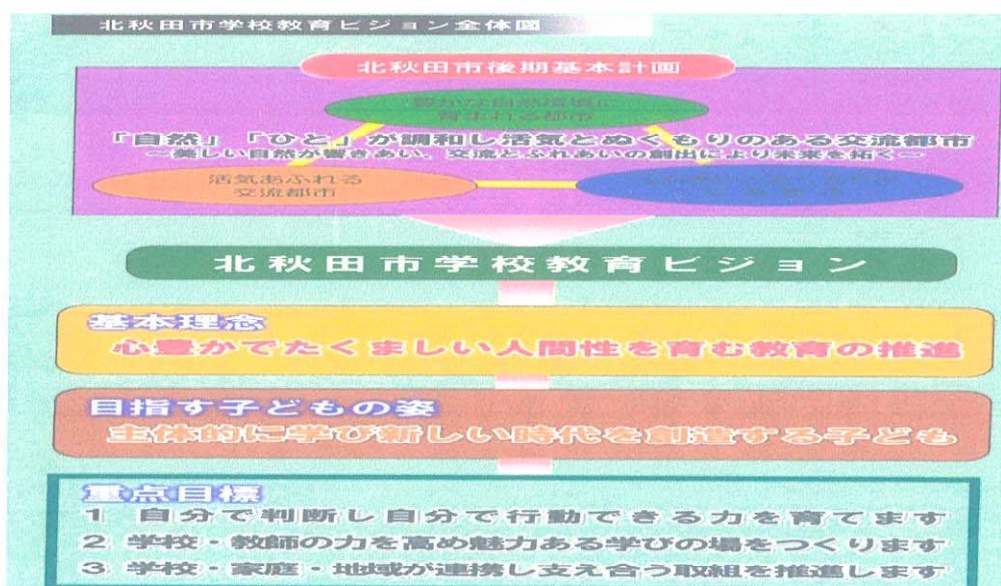
こうした中、新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実



現に向けた取組の内容 及び方向性は、これまで本県の各学校が行ってきた  
 “「問い」を発する子ども”の育成のための様々な取組や、「秋田の探究型授  
 業」の実現に向けた授業改善の視点と軌を一にするものと捉えられる。このこ  
 とから、今後、各学校においては、これまでの実践を新学習指導要領の理念に  
 基づいて工夫 改善を図るという視点を持ち、授業の質を一層高めることを念頭  
 に置いて取り組むことが重要である。

(オ)北秋田市の目指す学校教育

北秋田市学校教育ビジョン全体図



### ●目標達成のための取り組み

★重点目標1・・・自分で判断し自分で行動できる力を育てます。

基本方向・・・知・徳・体のバランスのとれた子供の育成

#### ・豊かな学力の定着

方針：一人一人の子どもに目が行き届く、きめ細かな指導の実践  
 〈重点的な取組〉

- ①個に応じた指導の徹底
- ②学校訪問指導による授業改善
- ③特別支援教育の推進

#### ・「問い」を発する子供の育成

方針：自分で考え表現し、伝え合う能力の育成  
 〈重点的な取組〉

- ①思考力・判断力・表現力を伸ばす授業の実践
- ②言語活動の充実を意識した授業改善
- ③読書活動の充実による読解力の育成

#### ・豊かな心と健やかな体の育成

方針：自分や他の人を大切にし、社会の中でたくましく生きる子どもの  
 育成

〈重点的な取組〉

- ①いじめ・不登校・問題行動のない学校づくり



- ②豊かな体験を生かした道徳性の育成
- ③体力向上と食育を通じた心身両面の健康づくり

・自己有用感の育成

方針：教育活動全体を通じた子供の自己有用感の育成  
 〈重点的な取組〉

- ①「貢献」「承認」「存在感」を高める指導の工夫
  - ②認められ自信を持つ機会や場、人と関わる機会や場の充実
- ★重点目標 2・・・学校・教師の力を高め魅力ある指導力の向上  
 基本方向・・・教師の授業力・指導力の向上  
 信頼され活力ある学校づくり

・授業改善による指導力の向上

方針：楽しく熱中できる授業づくり，登校意欲を高める学校づくり  
 〈重点的な取組〉

- ①分かる・できる・魅力ある授業の実践
- ②学力・学習状況の把握と授業改善の推進
- ③関わり合う力を育み，集団を高める授業の実践

・教師力の向上、信頼される教師の育成

方針：専門性を高め，実践的な指導力の向上を図る研修の充実  
 〈重点的な取組〉

- ①教職員研修体系に基づく研修の推進
- ②共同研究体制による研修の工夫と充実
- ③PDCAサイクルを活用した学校組織力の向上

・自己実現、夢の実現をかなえる教育活動の推進

方針：キャリア教育を重視したふるさと教育、進路指導、学習活動の充実を図る。

〈重点的な取組〉

- ①教育活動全体を通じたキャリア教育の推進
- ②キャリア教育の視点を重視したふるさと教育の推進
- ③社会性や自主性等を育む豊かな体験学習の推進

★重点目標 3

・・・学校・家庭・地域が連携し支え合う取り組みを推進します。

基本方向

・・・地域ぐるみの子育ての推進 地域に元気と活力を届ける子どもの育成

・地域との双方向の連携・信頼を築く学校づくり

方針：地域の教育力の活用，地域との交流，地域に根ざした特色ある教育活動の推進

〈重点的な取組〉

- ①学校を核にした地域ぐるみの教育活動の推進
  - ②地域人材・地域素材の活用
  - ③積極的な情報公開
- ・地域との元気を届け地域の活性化に貢献する学校づくり

方針：地域と共に歩み，地域の元気の源となる学校づくりと子どもの育成

〈重点的な取組〉

- ①地域に愛着と誇りをもつ子どもの育成
- ②元気なあいさつ等を通じた地域との絆を深める学校づくり
- ③地域行事・地域の活性化への参画・貢献

・安全・安心な教育環境の整備

方針：地域ぐるみの安全教育の推進，安全・安心な学校づくり

〈重点的な取組〉

- ①学校と地域が連携して子どもを育てる環境の整備
- ②学校内外の安全確保
- ③組織的で計画的な安全・防災教育の推進

(カ)学力向上策について(市教育委員会の施策)

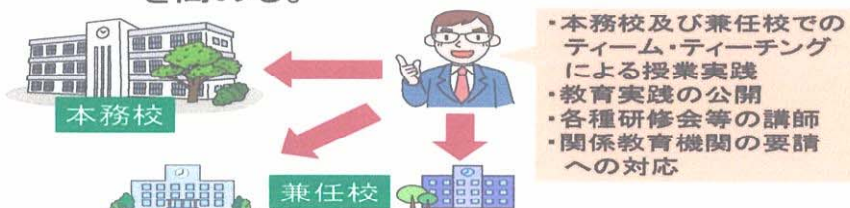
テストにはさまざまな要素が点数として表れる。(中略) 教師と子どもの信頼関係が保たれているか。クラスや学校の雰囲気は良好か。さらには、人が育つ大本の家庭がしっかりしているか。そんなことが学習の意欲や定着度を大きく左右し、最終的には点数に影響してくるという

●県の教育専門監制度(H18～)の活用

教科指導に卓越した力を有する教諭の資質能力を複数の学校に活用し、学校の教育力を高める。

教育専門監制度(H18～)

**趣旨** 教科指導に卓越した力を有する教諭の資質能力を複数の学校に活用し、学校の教育力を高める。



★本市の中学校教諭(数学科)も教育専門監として、複数の小・中学校を兼任

★学校訪問による授業改善

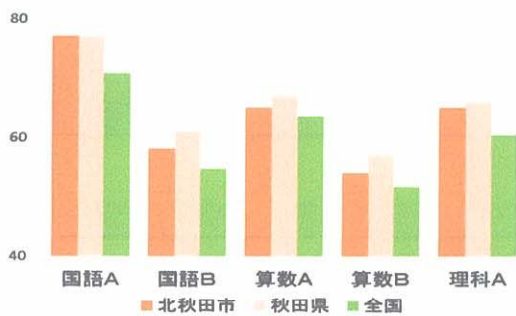
- ・「推進監」3名を配置
- ・市内の全小・中学校を訪問
- ・授業を参観し、指導助言
  - (社会科、外国語、保健体育、道徳科、特別支援教育、生徒指導)
  - ・・・月に市教育委員会訪問
  - (教育長、各課長、推進監等)

●北秋田市教育センター授業研究会

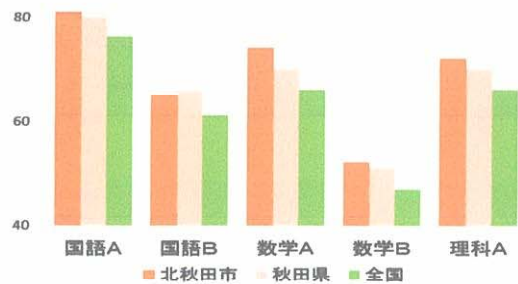


- ・毎年9月に実施
- ・北秋田市と上小阿仁村の全教員が対象
- ・小学校：学校規模に応じて4部会に編成
- ・中学校：教科ごとに部会編成 ・県指導主事又は市推進監が指導助言

各教科の平均正答率(H30 小学校6年生)

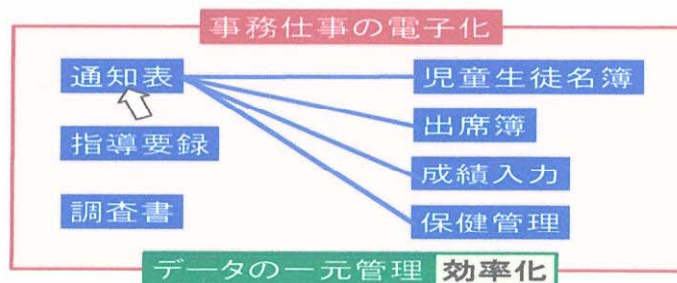


各教科の平均正答率(H30 中学校3年生)



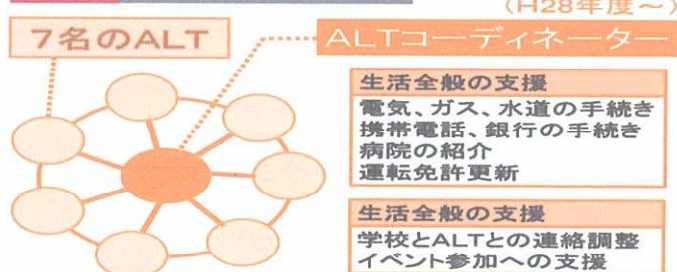
●北秋田市の教育の先進性

IV-1 校務支援システムの導入



●外国語教育の充実

IV-2 外国語教育の充実



●学校生活サポート員配置事業



### IV-3 学校生活サポート員配置事業

#### 事業の目的

心身の障害及び疾病等に起因して、学校生活上特別な教育的支援を必要とする児童生徒について、学校生活上の困難に対する必要な生活支援を行うことを目的として、当該児童生徒の在籍する小・中学校に非常勤の学校生活サポート員を配置する。

平成30年度 31人(小学校24人、中学校7人)

※1校当たり平均 2.1人

### ●小規模特任教諭

#### IV-4 小規模校特任教諭

小規模校における教育効果を高めるため、市教委が複式指導に卓越した指導を有する教諭を認定

複式授業をチーム・ティーチングで取り組むことで指導技術の向上を図ります。



### ●通級指導教室

#### IV-5 通級指導教室(巡回による指導)

通級指導教室が設置されていない学校に、通級指導教室の教員が巡回して指導する。



- ・設置校への移動時間解消=保護者の負担軽減
- ・学級担任と通級指導教員の連携が緊密になる

### ウ 平成30年度北秋田市「地域学校協働活動推進事業」

～ 支援から協働へ ～

【今までの効果】○・・・学校側 ●・・・地域側 (平成29年1月)

- ふるさとを学びのフィールドと位置づけ多くの学習や体験活動を実施。
- 児童数が減少しているが、地域の方々の応援により短時間で作業を終了。
- 教職員が「子どもの変容」として、地域との関わりを意識するようになった。
- たくさんの方に見守られ、自尊感情が向上し、意欲的に学習に取り組もろとする態度が育った。

専門性を生かした指導を進め、意欲付けができた。

- コーディネーターの方々の力量に感謝したい。
- 子どもたちから、元気をもらった。
- 学校へ行くことが楽しい。

●自分の知っていることや特技を伝えられて、子どもに期待感を持った。

【課題・問題点・対応】

◇過疎の地区なので、ボランティアの確保に難しさがあった。

◇ボランティアの高齢化により、欠員が出たときの補充が厳しい。

◇地域住民の一員としての居場所で、将来につながる新たな住民ネットワークが構築できると良い。

◇地域へ具体的に発信して学校への関心を高めてもらうとともに、地域の動きや必要としていることを生徒たちに伝える場を増やし、地域に対する生徒の関心を高めたい。

◇学校に対しての「敷居」や「壁」が、まだ残る。

【今後の展望】

◇学校と地域が一つになって築きあげてきた活動を、持続可能かつ継続するために、お互いの願いや思いを共有しながら協働する「仕組み」をつくる。

◇学校X地域X行政X企業の新しいネットワークの構築を目指す。

◇小学校X中学校X高等学校の連携を図る。



<平成30年度の方向性>

①中学校区毎に「地域学校協働活動推進員」を配置し、統括コーディネーターと連携を図る

②地域課題の共有を図るため、対話や熟議の機会を増やす。

(中学校区毎・地域X学校One (ワン) テーブル

③地域協働活動を見える化する。

(ミニコミ紙等で、地域へ発信・「地域学校協働活動」「家庭教育支援チーム」「子ども教室」)

④「協働」への理解を深める学習機会を設ける。

エ 伊勢堂岱縄文館視察

伊勢堂岱縄文館が平成28年4月23日(土)にオープンした!!

縄文館は、展示室、体験コーナー、ミュージアムショップ、トイレなどを備えた施設で、遺跡の保存・活用・公開の拠点。

展示室には伊勢堂岱遺跡や市内の縄文遺跡から出土した土偶・土器など約300点を展示し、遺跡をわかりやすく説明した映像をみることができる。

また、体験コーナーは、小規模の講演会を開催したり、勾玉や土器づくりなどの体験ができるスペースになっている。



伊勢堂岱遺跡は北秋田市脇神字伊勢堂岱に位置する、縄文時代後期前葉(約4,000年前)の環状列石を主体とする遺跡。これまでに4つの環状列石を中心に、配石遺構、掘立柱建物跡、土坑墓、柱穴、溝状遺構などが検出されている。



大館能代空港へのアクセス道路建設に先立ち、平成6年から秋田県教育委員会が発掘調査を行い、平成7年には直径約32mの環状列石Aと、弧状の環状列石Bが発見された。

さらに翌年の平成8年には環状列石C（直径45m）が確認され、3つの環状列石が発見されたことで、地域住民や県民から遺跡の現地保存を求める声があり、平成8年12月に道路計画を中止し、道路を迂回させ、遺跡を現地保存することを決定した。



平成9から22年度まで北秋田市教育委員会が発掘調査を継続し、遺跡の範囲や4つめの環状列石など遺跡の詳細な内容が明らかになり、4つの環状列石を主体とする、縄文人の世界観や社会構造を復元できる貴重な遺跡として、平成13年1月29日に国の史跡に指定された。

伊勢堂岱遺跡は「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」として世界遺産登録を目指している。



「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」は、平成21年1月5日付けでユネスコ世界遺産センターの世界遺産暫定一覧表に記載された。

◆北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群の構成資産リスト

<北海道>

キウス周堤墓群（北海道千歳市）・北黄金貝塚（北海道伊達市）・入江・高砂貝塚（北海道洞爺湖町）・大船遺跡（北海道函館市）・垣ノ島遺跡（北海道函館市）

<青森県>

三内丸山遺跡（青森県青森市）・小牧野遺跡（青森県青森市）・是川石器時代遺跡（青森県八戸市）・大森勝山遺跡（青森市弘前市）・亀ヶ岡石器時代遺跡（青森県つがる市）・田小屋野貝塚（青森県つがる市）・二ツ森貝塚（青森県七戸町）・大平山元I遺跡（青森県外ヶ浜町）

<岩手県>

御所野遺跡（岩手県一戸町）

<秋田県>

大湯環状列石（秋田県鹿角市）・伊勢堂岱遺跡（秋田県北秋田市）

### (3)鹿角市

ア 鹿角市（かづのし）は、秋田県北東部に位置する市。

青森県・岩手県・秋田県三県の県境に位置する。古くは「上津野」と表記していた。

古墳も多く遺され、大湯環状列石は全国でも著名な縄文遺跡の1つである市の中にある花輪盆地に、花輪、十和田の市街地がある。南部は、八幡平や



焼山がある山岳地帯となっており、北部は十和田湖付近の分水嶺までの丘陵地を市域とする。

昭和 53 年、本市の経済を支えていた尾去沢鉱山が閉山し、経済、人口に大きな影響を与えたが、昭和 57 年、坑道を観光に生かしメインランド尾去沢としてリニューアルし、平成 19 年に「近代化産業遺産」に認定され、平成 20 年に開山 1,300 年を機に名称を史跡尾去沢鉱山として産業遺産の歴史を伝えている。



また、平成元年に開館した鹿角観光ふるさと館『あんたらあ』は、平成 7 年に道の駅に登録され、道の駅「かづの」として地域の文化情報を発信している。

約 1,300 年にわたり伝承されているユネスコ無形文化遺産、国の重要無形民俗文化財である「大日堂舞楽」をはじめ、多くの文化財、文化遺産を有しており、平成 26 年には日本三大ばやしの 1 つである花輪ばやし「花輪祭の屋台行事」として国の重要無形民俗文化財に指定された。

現在は、縄文時代後期遺跡である国特別史跡「大湯環状列石」について「北海道・北東北の縄文遺跡群」としての世界遺産登録を目指している。

#### イ 鹿角市の人口と世帯数

人口 31,136 人 男 14,714 人 女 16,422 人  
世帯 13,038 戸 ※平成 30 年 9 月末 住民基本台帳

#### ウ 学校

鹿角市には、市立の中学校が 5 校、市立の小学校が 10 校（うち分校 1 校）、市立の幼稚園が 3 園（あけぼの幼稚園、はせがわ幼稚園、みやふもと幼稚園）あったが、秋田県内 2 例目の構造改革特区である幼保一体特区により、平成 17 年 4 月に認可保育所の大里保育園と幼稚園 3 園を統合して八幡平なかよしセンターとなった。

また、県立の高等学校が 2 校ある。

#### エ 学力向上策について

##### (ア)市の教育目標

心豊かでたくましく 郷土を愛しその発展に尽くす市民を育む教育を進める。

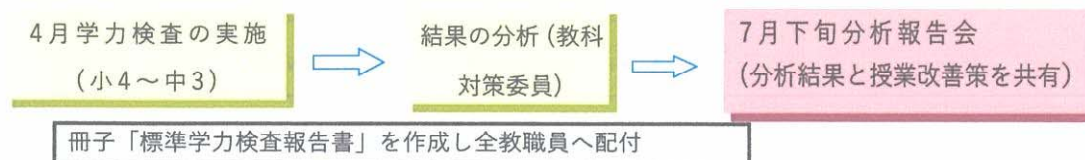
##### (イ)学校教育の基本方針

豊かな心と自立する力を身に付けた幼児・児童・生徒を育み、一人一人の個性や能力を伸ばすことのできる学校教育の充実を図る。

##### (ウ)重点目標

- 確かな学力を身に付け、豊かな人間性と社会の中でたくましく生き抜く力の育成
- #### a) 児童生徒学力向上対策事業

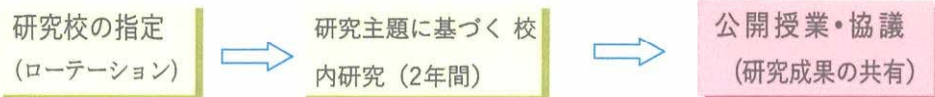
##### ① 全国標準学力検査（NRT）と分析報告会の実施…H29 年度決算額 2,389,410 円



・児童生徒の学力向上に資するために、1990年度からCRT標準学力検査、1996年度からNRT標準学力検査を実施し、知識理解を中心とする基礎学力の向上に努めてきた。2014年度からは、課題解決能力の育成に取り組むために、業者を変えて新しいN R T標準学力検査に取り組んでいる。

・小学校4～6年生720名、中学生全学年720名が受験

②授業研究会の実施（小・中学校教科及び教科外授業研究会）



●小学校研究サイクルの状況

公開年度	H29	H30	H31	H32	H33
指定年度	28,29	29,30	30,31	31, 32	32,33
分 類	教科	教科	教科外/道徳	教科	教科
小学校	平元草木 八幡平	十和田 大湯	尾去沢 小坂	花輪北 八幡平	花輪

・各校においては、指定された研究だけではなく、各校の教育目標及び研究主題の具現化に向け、多くの校内授業研究会が行われている。（資料1）

③鹿角教育実践発表会・教育講演会（今年度第30回を数える）

④研究紀要「かづのの教育」を作成し全教職員へ配布

b) みんな生き生き学校サポート事業

①学校生活サポーターの配置小学校7校に13名

…H29年度決算額27,575,283円（①+②）

・鹿角市教育支援委員会において、生活面でのサポートが必要であり、保護者からの希望があった児童を対象に配置する。

②複式学習サポーターの配置小学校2校に2名

・H31年度 統合により終了

②学習支援サポーターの配置中学校5校に2名

…H29年度決算額3,694,946円

・鹿角市教育支援委員会において、学習面でのサポートが必要であり、保護者からの希望があった生徒を対象に配置する。

c) 外国語活動充実事業

①ALT（外国語指導助手）の配置2名…H29年度決算額9,253,440円

・充足率（配置時数/授業時数）は、小学校で:82%、中学校で15%

・H30年度は、小学校3・4年で15時間の外国語活動を実施、5・6年生においても15時間増の時間の実施となることから、3名を配置している。

…H30年度予算額13,880,160円

・北東北にALT派遣業者が1社であることから、（株）インタラック北日本との随意契約である。



②サタデーイングリッシュの開催…H29年度決算額 23,442 円

・12回開催（花輪・十和田・尾去沢・八幡平の各地区で3回

d)かづの夢創造school事業

① JFAこころのプロジェクト『夢の教室』の開催

…H29年度決算額 1,250,000 円

・日本サッカー協会への委託事業。夢や目標をもつことの大切さや、それに向かって努力することの大切さを伝える活動。

元プロ選手が多いが、今年度は現役フィンスイマーが登壇したこともあった。

・H22年度より小学校5年生を対象に継続。H29年度は241名が体験した。

②「ようこそ先輩」型講座の支援

…H30年度予算額 562,000 円

・各中学校において、「この人に学ぶ」「キャリアアップ講座」「ライフ・スタディ」等のタイトルの下、地域で活躍する文化人や経済人、職人を招へいして行う講座を支援する。

e)ふるさと・キャリア教育推進事業

…H29年度決算額 184,000 円（人件費除く）（資料2）

・将来、社会人・職業人として自立していくために必要な意欲・態度や能力を身に付けるとともに、ふるさと鹿角を自分が支えようとする強い気概をもった子どもたちを育成するため、ふるさとに根差した地域参加型のキャリア教育を推進することを目的とする。

・市内全小・中学生を対象に、職場体験や見学、ボランティア活動の支援を行う。

・他課配当分により、ふるさと・キャリア教育コーディネーターを市教育センター内に1名配置。

●児童生徒、保護者及び家庭から信頼され、地域の元気の源となる学校の創造

a)学校パワーアップ事業

…H29年度決算額 226,519 円

・教職員が様々な教育課題や生徒指導上の問題に対処するための知識や技能を習得するための研修会の開催を支援する。

b)校務支援システム構築事業

…H30年度予算額 2,381,400 円（リース・保守料）

・出席簿や指導要録、個人の生活の記録等における電子化。

●学校・家庭・地域の連携協力による学校教育の向上

a)ふるさと生き生きネットワーク事業

H30年度決算額 小学校 2,622,000 円、中学校 1,327,000 円

・鹿角の美しい自然や人々との触れ合いを通じ、ふるさとの良さを体感し、特別活動や総合的な学習の時間等でキャリア教育の視点を加味したふるさと学習の充実を図り、各校の特色ある教育活動を推進する。

・事業費：1校30万円を上限とする。

●学校教育環境の整備・充実による安全性の向上と質の高い教育の実現

a)かづのこもれび教室事業

…H29年度決算額 1,951,036 円

・不登校及び不登校傾向の児童生徒を受け入れる教室。家庭・学校以外の居場所と



して、こもれび教室の空間や人間関係は重要な役割を担う。

・指導員1名を常時配置している。

#### b) かづのこもれび相談事業

…H29年度決算額1,164,000円(事務費、臨床心理士業務委託料)

・かづのこもれび相談(相談員)延べ件数1,070件(来所203件、電話853件、訪問14件)

・専門員(臨床心理士)延べ件数77件(カウンセリング50件、心理判定・報告27件)

#### オ かづのふるさと・キャリア教育推進事業について

◆目的：将来、社会人・職業人として自立していくために必要な意欲・態度や能力を身に付けるとともに、ふるさと鹿角を自分が支えようとする強い気概をもった子どもたちを育成するため、ふるさとに根差した地域参加型のキャリア教育を推進することを目的とする。

◆対象者：市内全小・中学生

◆事業費：平成29年度実績額184,000円

(他課配当分：ふるさと・キャリア教育コーディネーター1名配置)

平成30年度予算額200,000円

(他課配当分：ふるさと・キャリア教育コーディネーター1名配置)

#### ◆主な事業

##### ①夢探究プロジェクト「夢たん」について

目的：地元企業の職場見学や職場体験を通して、勤労観や労働環境、社会・経済の仕組み等についての理解を促し、児童生徒のキャリア発達に資する活動を充実させる。

内容：キャリア教育担当が連携窓口の役割を担うことで、小・中学校の職場見学や職場体験学習を円滑に進める。

H30.6現在受入登録事業所	156社
平成29年度利用児童生徒	941名

##### ②「夢たん」ボランティアについて

目的：ふるさと鹿角で、児童・生徒が地域や企業などの社会や人に触れながら様々な活動を通して、「鹿角市民」としての意識の高揚を図る。

内容：地域・企業のイベント等に係るボランティア募集に、小・中学生が応募する。

平成27年度31名参加平成28年度69名参加平成29年度59名参加

#### ◆成果と課題

○将来の夢や目標をもっている児童・生徒の割合が増加した。

平成28年度秋田県学習状況調査

小4～6：94.6% 中1～2：74.2%

平成29年度秋田県学習状況調査

小4～6：92.7% 中1～2：78.7%

△受入協力のある事業所の周知、積極的な活用

#### カ ふるさと生き生きネットワーク事業について

◆目的：鹿角の美しい自然や人々との触れ合いを通じ、ふるさとの良さを体感し、特別活動や総合的な学習の時間等でキャリア教育の視点を加味したふるさと学習の充実を図り、各校の特色ある教育活動を推進する。

事業費：1校30万円を上限とする

平成29年度実績額小学校2,622,000円、中学校1,327,000円

平成30年度予算額小学校2,701,000円、中学校1,473,000円

<中学生によるボランティアガイド>

- ・八幡平中学校 八幡平（大沼・後生掛）ボランティアガイド 全学年
- ・尾去沢中学校 史跡尾去沢鉱山ガイド 全学年
- ・十和田中学校 大湯ストーンサークルボランティアガイド 選択

◆成果と課題

○郷土を大切にしている心情の醸成、自分の地域の良さや可能性の実感、将来

を切り拓く態度等の育成

○地域や企業等との連携によって、児童生徒の意見や考え等を反映した商品化の事例

※十和田中学校平成27年度キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰受賞

※八幡平中学校平成27年度パナソニック教育財団主催「こころを育む活動」全国大賞受賞

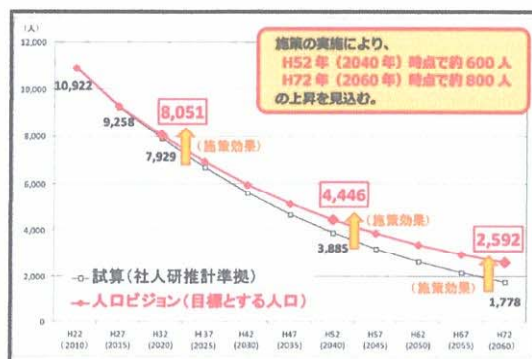
※鹿角市教育委員会平成28年度キャリア教育優良教育委員会文部科学大臣表彰受賞

※尾去沢小学校、中学校平成29年度「地域学校協働活動」文部科学大臣表彰受賞

<在籍児童生徒数>

小学校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
花輪小学校	72	67	81	66	85	70	441
花輪北小学校	23	14	30	22	19	27	135
平元小学校	12	15	10	19	12	10	78
十和田小学校	48	47	48	51	34	51	279
未広小学校	2	9	3	4	2	2	22
大湯小学校	12	20	19	14	23	17	105
草木小学校	4	2	6	4	9	1	26
尾去沢小学校	15	16	14	18	23	26	112
八幡平小学校	30	31	30	24	34	37	186
学年合計	218	221	241	222	241	241	1384

中学校	1年	2年	3年	合計
花輪第一中学校	93	91	83	267
花輪第二中学校	20	17	27	64
十和田中学校	72	74	63	209
尾去沢中学校	19	27	16	62
八幡平中学校	29	31	29	89
学年合計	233	240	218	691



## オ 大湯環状列石

遺跡は昭和6年(1931)、耕地整理の際に発見された。

遺跡は縄文時代後期前葉～中葉(今から約4000年前)につくられたものである。

万座と野中堂の二つの環状列石が主体となっており、万座環状列石の最大径は54.25m、野中堂環状列石の最大径は44.00mである。

環状列石は川原石を雑然と置き並べたものではなく、数個から十数個の石を円形・楕円形や菱形などに組み合わせた組石遺構が集合したもので、これらが二重の円環を描くように並べられており、最も形の整った「日時計状組石」は各々の環状列石の中心から北西側にある。

これまでの発掘調査によって環状列石そのものは「組石墓」の集合体であり、これを中心に掘立柱建物、貯蔵穴・土坑、遺物廃棄域が同心円状に広がっていることが分かった。

また、環状列石の原型と考えられる一本木後口配石遺構群や掘立柱建物群、竪穴住居跡、環状配石遺構、石列、柱列などの遺構がたくさん発見されている。

これら遺構とともに多量の土器、石器、土製品、石製品が出土している。

土器は用途に合わせて色々な形のものが作られるほか、赤色顔料を塗り日常使用するものと区別したものもある。

土・石製品も種類が多く土偶、鐔形・キノコ形・動物形土製品、石刀、足形石製品などがあり、これらは環状列石を囲んで行われた葬送儀式や自然に対する畏敬の念を表す「祈りとマツリ」に使用された道具と考えられている。

平成10年から環状列石の性格、縄文の原風景を体感できるように環境整備が行われており、14年にはガイドンス・体験施設として「大湯ストーンサークル館」を開館した。

## 8 所見等

### (1)北秋田市

10月16日13時30分、北秋田市議会副議長佐藤重光氏 から歓迎挨拶を受け視察項目である学力向上施策および伊勢堂岱縄文館視察(縄文文化財の維持管理)について担当者からの説明を受けた。





学力向上施策については、教育委員会小野寺次長の挨拶の後、教育課推進監小林陽介氏から説明を受けた。

伊勢堂岱縄文館視察については、施設研修も含め行ったが現地に於いて中嶋館長および松田主査・榎本主査から説明を受けた。

#### ア 学力向上施策について

・昭和41年頃までは、全国学力テストは常に最下位に位置していた。しかし、平成19年度始まった全国学力・学習調査では全国トップ級となった。

すでに、40年前からこの対策がとられていた。

テストには様々な要素が点数として現れる。

教師と子どもの信頼関係が保たれているかどうか。クラスや学校の雰囲気は良好か。さらには、人が育つ大本の家庭がしっかりしているか。そんなことが学習の意欲や定着度を大きく左右し、最終的には、点数に影響してくる。

北秋田市で行われている教育目標などを見ると、本市とはあまり変わらない。

・「早寝・早起き・朝ご飯」や「元気な挨拶 明るい返事」「問題解決 子どもが主体 授業の続きは家庭で学習」など。しかし、中身が違う。

アンケートなどもとっており、学級での会話を通じ自分の考えを深めたか？家庭学習の課題を考えたり教職員で共通理解を深めたか？など各種課題への取り組みそのものが学力向上へとつながっている。

また、県教育委員会の施策の具現化へ向けての姿勢を受け、市教育委員委員会として夏休み期間中の1～5日間の職場体験、いじめゼロサミット、郷土学習フィールドワークなどを行っていることは、個人力の向上につながっている。

・全県指導主事等連絡協議会では、県教育委員会主導で、4月・12月、全市町村の指導主事等が集まり意見交換し、「オール秋田」で授業改善を行っている。

・県には教育専門監制度があり、教科指導に卓越した力を有する教諭の資質能力を複数の学校に活用し学校の教育力を高めるものであり一定の成果を上げていた。

また、市では、学校訪問指導による事業改善を行っており、「推進監」3名を配置、市内の全小・中学校を訪問、授業を参観し、指導助言を行っている。

・外国語教育の充実では、ALTコーディネーターにより、生活全般の支援や学校・ALTの連絡調整を担っている。

・「あきたリフレッシュ学園」不登校などの子ども夢たちを集め、宿泊型フリースクールとして、基本的な生活習慣、教育相談、体験活動を通じて子どもたちの能力向上に役立っている。

これらは、県指導で各市町村まで一貫した方針の下で行われており真剣に学力向上に努めていることがうかがわれた。

#### イ 北秋田市の「地域学校協働推進事業」

##### (イ)学力向上策について

学校・家庭・地域がともに「こどもたち」を育むとして、支援から協働へと協力態勢をとっている。

これらのまとめは、北秋田市ではコミュニティ・スクールは導入していないまでも地域や・家庭との連携を大切に、かつ学力向上への道筋としている。

#### ウ 史跡伊勢堂岱遺跡

伊勢堂岱縄文館（いせどうたいじょうもんかん）で館長ら職員の説明を受けたが、展示室は、伊勢堂岱遺跡や北秋田市内の縄文遺跡出土品を展示し、遺跡を解説した映像を、英語・中国語・韓国語・日本語で上映していた。

小規模の講演会や、勾玉や土器づくりなどの体験ができるコーナーもあった。

近年熊の出没により防護柵の導入や安全確認のための手順を明確にし見学者への安全確保に努めていた。

遺存状態がよく学術的価値が高いことから、平成13年1月、伊勢堂岱遺跡は国の史跡に指定され、この視察中、伊勢堂岱遺跡は「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」として世界遺産登録を目指しており、平成21年1月5日付けでユネスコ世界遺産センターの世界遺産暫定一覧表に記載されましたと言っていたが、残念ながら認可されなかった。

この地は、特に環状列石が隣接して4つも発見されていることは他に例がなく、縄文時代の社会組織を解き明かす上で貴重な事例といわれるが保存計画を含め本市は遺跡に対する保存措置・継承施策が十分とはいえないのが残念である。



## (2) 鹿角市

### ア 学力向上策

午前中2カ所の視察計画を申し込んだが快く対応していただき感謝する。

午前9時からの視察であり、宮野和秀市議会議員、畠山教育長の挨拶の後、学力向上施策については、田中学事指導管理監、海沼指導主事の説明を受けた。

教員の能力向上では、管理監教育に加え若年教諭については、構内研修を充実させ、主任教諭や教頭による指導を徹底させていた。

一方で家庭との通信の充実や蔵書などにも気を配り、本を読む癖をつけている。特出すべきは、夏休みの活用である。スポーツ少年団を含め夏休みの当初1週間は部活を中止。先生方も時間外勤務の短縮に向けての努力をしている。

学校教育環境の整備として、不登校児童等の受け入れ施設・居場所の提供にも取り組んでいた。

少ない予算の活用が充実している。

また、学力が思わしくない学校や児童には、キャリア教育を充実させ、自分に自信が持てるような教育も行われていた。

### イ 大湯ストーンサークル館

阿部館長、赤坂主査より説明を受ける。

建物は雪国に古くから伝わる「雁木（がんぎ）」をイメージした平屋で、史跡の景観を損なわないよう配慮され、展示ホールには発掘された土器がずらりと並んで壮



観。

この施設、縄文土器や土偶やペンダントなどの製作が可能な縄文工房（要予約）、ミュージアムショップ、遺跡や考古学、歴史に関する本を集めたギャラリー・図書閲覧コーナーも併設されておりうらやましく思った。



周囲には縄文の森も再現され、大湯環状列石は縄文時代の石がそのままに置いてあるので立ち入ったり、触ったりはできなかったが今後もまだ整備続けられるようだが、施設を巡ってのロマンが感じられる。

この地も、北秋田市史跡伊勢堂岱遺跡と同様、熊対策のための電気柵が張られていた。

もう一度この地を訪れ縄文文化にゆっくりひたりたい。

完